

貯法：気密容器・室温保存
使用期限：容器等に表示
注意：「取扱い上の注意」の項参照

日本薬局方 沈降炭酸カルシウム

沈降炭酸カルシウム「ケンエー」

承認番号	(61AM)1521
薬価収載	1986年3月
販売開始	1986年3月
再評価結果	1980年3月

日局 沈降炭酸カルシウム

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

甲状腺機能低下症又は副甲状腺機能亢進症の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕

【組成・性状】

〈組成〉

1g中 日局沈降炭酸カルシウム 1g含有。

〈性状〉

白色の微細な結晶性の粉末で、におい及び味はない。

分包品

	外形	識別コード
0.5g×3連包		KE CAC
1g×3連包		

【効能・効果】

下記疾患における制酸作用と症状の改善

胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、
上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)

【用法・用量】

沈降炭酸カルシウムとして、通常成人1日1~3gを3~4回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

※※【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)腎障害のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
- (2)心機能障害、肺機能障害のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
- (3)便秘のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
- (4)高カルシウム血症の患者〔副作用があらわれやすくなる。〕

2. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

本剤は吸着作用、制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系 抗生物質 (テトラサイクリン、 ミノサイクリン等) ニューキノロン系抗 菌剤 (シプロフロキサシン、 トスフロキサシン等)	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるため、同時に服用させないなど注意すること。	カルシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。
高カルシウム血症改善 イオン交換樹脂製剤 (ポリスチレンスルホン 酸カルシウム、ポリ スチレンスルホン 酸ナトリウム)	これらの薬剤の効果が減弱するおそれがある。また、併用によりアルカローシスがあらわれたとの報告がある。	カルシウムがこれらの薬剤の陽イオンと交換するためと考えられる。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
活性型ビタミンD ₃ 製剤 (アルファカルシドール、 カルシトリオール)	高カルシウム血症があらわれやすくなる。	活性型ビタミンD ₃ 製剤はカルシウムの吸収を促進する。
大量の牛乳	milk-alkali syndrome(高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)があらわれるおそれがあるため、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。	危険因子：高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機能障害のある患者
※※ ロキサデュスタット	ロキサデュスタットと併用した場合、ロキサデュスタットの作用が減弱するおそれがあるため、併用する場合は、前後1時間以上あけて本剤を服用すること。	ロキサデュスタットを酢酸カルシウムと同時投与したところ、ロキサデュスタットのAUC _{inf} が低下した。

※※

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
代謝異常 ^{注)}	高カルシウム血症、アルカローシス等の電解質失調
長期・大量投与	腎結石、尿路結石
消化器	悪心、便秘、下痢、胃酸の反動性分泌等
過敏症	痒疹感

注)観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため減量するなど注意すること。

【取扱い上の注意】

〈安定性試験〉¹⁾

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温、4年間)の結果、通常の市場流通下において4年間安定であることが確認された。

※【包装】

500g、0.5g×1,050、1g×1,050

【主要文献】

1) 健栄製薬株式会社 社内資料：沈降炭酸カルシウムの経時安定性について

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

健栄製薬株式会社 学術情報部
〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
電話番号(06)6231-5626
FAX番号(06)6204-0750